

インターバンクの声（2016 年 9 月 27 日）

週明けのニューヨーク市場では、ドル円が再び先週 22 日の米連邦公開市場委員会後に付けた 100 円台前半まで下げている。日銀黒田総裁の講演・会見での発言で、当面は国債買い入れ規模が大幅に変更されることはないとし、円安誘導を行うことが不可能との見方が強まったことや、この日の米大統領候補によるテレビ討論会を巡る不透明感がドル売りを促していた。悪い時には悪い材料が重なるもので、ドイツ銀行の経営不安再燃も欧米のみならず、日本でも金融関連株の下落に繋がっており、いつもの投資家のリスク回避姿勢の広がりや円買いになる構図も加わっていた。ここまで 100 円割れに近い水準まで来れば、さらに円高が進むとのシナリオを展開するにもリスクは少なく、これまで静かだったストラテジストやアナリストの面々が、こぞドル円の先行き 95 円、90 円到達予想を唱え始めている。黒田総裁も 2% の物価目標達成に向けて頑張っているのは理解できるが、皮肉にも最近の日銀のやることとなすことが裏目になっている印象は拭えず、市場の一部からは黒田総裁が発言する度に損失が出ているなどとの声も聞かれる。中央銀行にとって市場を敵に回すようになってしまっただけでは政策運営も難しくなる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。